

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2770700876		
法人名	有限会社 老蘇さん		
事業所名	グループホーム 老蘇さん		
所在地	大阪府河内長野市木戸西町2丁目8番20号		
自己評価作成日	令和5年10月23日	評価結果市町村受理日	令和5年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiqyosyoCd=2770700876-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiqyosyoCd=2770700876-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	大阪府堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和5年11月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

感染対策を行いながらも、庭に面会できる場所を作ったり、感染者の状況に合わせて制限を介助したり、出来る限り家族様が面会を行える工夫をしており、面会が出来ないことによる認知機能の低下や意欲の低下が起きないように配慮を行っている。またSNSを利用して近況をお伝えすることで家族様が不安を感じないような支援を行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

従前の課題であった終末期対応、看取り対応の拡充に努められており、訪問看護との連携等も行いながら、対応実施に至られています。BCP(事業継続計画)の策定にあたり、近隣他施設や地域との連携についての話し合いが行われており、共同協体制の構築を推進されています。協体制の中では、災害等発生時の連絡体制や連携体制について、検討されています。地域や家族等との関係性を大切にされており、コロナ禍の制限下において、実施困難であった認知症カフェを、地域の社会資源の場を活用しながら、開催再開されており、地域の方々との交流や、情報交換・情報共有が図られています。コロナ禍の制限下においても、利用者と家族等との面会を、感染状況を踏まえながら、施設敷地内の屋外スペース等を活用し、可能な範囲で実施されていました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で自分らしく生きることができるところを重要視した理念をつくり、廊下に掲示し管理者と職員が理念を共有してケアへ反映することが出来るように取り組んでいる。	利用者の生活を中心とし、利用者の自立維持を大切にしながら、地域や家族とのつながりを継続した支援を心がけられています。利用者の生活を支え、地域や家族との交流を第一に考えた展開に努められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加を行っており、地域行事に地域の一員として参加している。また、近隣で認知症カフェの運営を行い、地域の方が相談、情報交換、気分転換の場として活用してもらえるような取り組みを行っている。	地域との関係性を大切にされており、地域の社会資源を活用した認知症カフェの開催や、災害時等の地域との連携、協力体制の構築に向けた話し合い等が行われています。自治会活動や行事、祭事にも参加されており、地域の方々の交流が行われています。地域のボランティア活用も行われていたが、制限緩和に伴い、可能な範囲から順次再開される予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を通じて得た専門的な知識や技術を活用し、認知症カフェで地域の方の相談業務を行っている。また、河内長野市が取り組んでいる認知症コーディネーターとしての活動で地域に、認知症の方が暮らしやすい地域作りに関わっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方にホームでの取り組みを報告し、地域の状況をヒアリングし、互いに情報交換を行い、地域の中での役割を担えるよう取り組んでいる。 地域からサービスとして求められること。例えば施設でご本人の生き方を尊重した暮らしを継続していけるように職員と話し合い、サービスの向上に活用している。	運営推進会議では、行政・地域包括支援センター・地域のコミュニティーソーシャルワーカー・自治会・家族・他施設管理者等の参加があります。地域の方や市民目線の情報交換・情報共有を図り、相互理解の促進に繋がられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、市役所で行われるグループホーム部会、また、市内のグループホームの空き情報を統括して市役所へ報告し、市内でグループホームを探しておられる方が空き情報を、確認しやすいように市役所と連携をとっている。互いに連携がとれるように努めている。	施設が、地域の認知症コーディネーターとして活動されており、地域包括支援センターとの連携を図りながら、地域への啓発活動や支援活動に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束に関わる研修を実施している。その中で、言葉や薬によるものも身体拘束にあたること、また施錠やベッド柵も含めて、身体拘束に当たる行為以外の、ケアを行う上で、出来る限り身体拘束を行うことなく安全にケアをする上で配慮する方法を模索している。	年2回の職員研修が実施されており、運営推進会議の際に、委員会活動も実施されています。言葉による拘束についても繋がるような応答や声かけにならないよう、努められています。運営推進会議や家族等に拓かれた施設を意識されており、外部の目から、不適切な要因がないかチェックされる環境構成に留意されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待に関する研修を実施している。また、虐待に当たる行為や兆候についても勉強し、専門職として適切な対応を行えるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての理解を深めていけるように取り組んでおり、必要に応じて、関係者と話し合いを行い、導入についても検討を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できる限り分かりやすく、説明を行い、また後日でも不明な点があった場合に連絡をしてもらえるように声掛けを行い、納得してもらえることを重視している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様との連絡は、しっかりととれており、コミュニケーションをとることを重視している。また、ご意見に対しても、ホームで出来ること、ホームで話し合い検討すべき事項、出来ないことをお伝えしできる限りご要望にお応えすることができるように取り組んでいる。	コロナ禍の制限下においても、可能な範囲での面会機会の確保を行い、極力家族等の直接の声も拾えるよう努められていました。運営推進会議にも家族等が出席されており、運営の場面等具体的な内容を含めた意見交換が実施されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員との対話を重ねながら、より良いサービスの提供が出来るように取り組んでいる。また、改善案等を思いついた場合、気軽に意見を言いやすい環境作りに努めている。	職員との話し合いを踏まえた、施設改修や補助具・家具・備品等の検討、評価が行われており、試験的に導入したりしながら、支援の質の向上にも繋げられるよう努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も同じように実務にかかわっており、労働状況や、仕事量の配分、やりがいをもって取り組めるように配慮している。仕事の内容や職責に合わせて給与へ反映を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域での行われる研修に関してはホーム内でアナウンスを行い、希望者が受講できるように支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に他事業所と交流を行っており、理解をいただける事業所も増えてきている。また、信頼関係の構築が出来たことで、相互に情報交換や相談を行えるようになっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入するにあたり、信頼関係の構築に重きを置いており、ご本人さんの気持ちに寄り添い、グループホームでの暮らしが自分の生き方を尊重してもらえる場所だと理解していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本にの暮らしに安心感を持ってもらえるとともに、家族さんがこれまで在宅で支えて来られた支援に敬意を払い、家族様の希望に耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当サービスの特性と有用性を説明することで、利用者様ご自身が必要なサービスの聞き取りを行い、必要に応じて他のサービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	優しさのある自立支援を行っており、一緒に生活を共に行う中でホームでの役割を担って頂く事を重要視している。また、相互に声をかけやすい関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所していただくにあたり、当ホームでは家族さんが家で行うことが難しいケアをすることは出来るが家族としての関わり的重要性を説明し、引き続き家族としての支援をしていただけるよう依頼している。必要に応じてホームからもアプローチを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や親しい方との関係を継続できるように支援をしている。希望があれば、馴染みの場所へ訪問できるような支援を行っていたが、新型コロナウイルスの影響でここ数年は行っていない。	コロナ禍の制限下において、従前のような積極的な交流が困難な状況ではしたが、家族等とのつながり継続のために、感染症状況を踏まえながら、可能な範囲での面会継続等が行われていました。制限緩和に伴い、従前実施されていた馴染みの場所等への外出再開拡充が予定されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い方とは席を近くにして過ごしやすい場所作りに努めている。どうしても相性が悪い方は区画を分け、ストレスが大きくなるように配慮をしている。それぞれが孤立しないように職員が対応を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても介護保険に関する相談等を受けており、地域密着サービスとして関係が継続できるように対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの方の希望を定期的にヒアリングしており、本人からの聞き取りが難しい場合は家族様に、お聞きして確認をし、本人の立場に立って希望についてスタッフで話し合いを行っている。	利用者直接の意向を大切にされており、身振り手振りや表情の表出でも直接確認出来る内容を意識した支援の提供に留意されています。施設入居後に意思表示能力が徐々に低下していった利用者に対しては、入居時からの利用者直接の意向や言葉を大切に、利用者自身の意向により近いものとなるよう努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様と在宅におられたときに、担当されていたケアマネジャーの方からサービスを利用することになった経緯を確認し、本人様、家族様と親しい方から出来るだけ情報を収集を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを取りながら、ご本人さんが楽しめることややりがいをもって取り組めることを生活の中に取り入れてもらいながら、有する力を維持・継続出来るように支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様に担当職員を配置して、ケアカンファレンスで主治医、歯科医等の意見も含めて検討している。その内容を家族さんとも相談し、その内容をケアプランに反映しています。	計画の更新時には、利用者個々の担当者によるアセスメントや計画の評価を行い、介護支援専門員とのケア会議を経て、計画の更新に繋がっています。計画の半期では、介護支援専門員による評価が行われ、計画の妥当性が判断されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットで記録し、それらをスタッフがいつでも見ることができるようになっている。また、情報共有をうまくいったケア方法を周知して利用者様に満足いただけるケアが行えるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様又は本人様の希望に対して、出来ないことと出来ることは、その時の職員の状況や勤務体制を鑑みて実現出来る可能性を検討するようにしている。指圧マッサージの利用等。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	河内長野市の取り組みである、認知症パートナー及び介護相談員の制度を利用していたが、新型コロナウイルスの影響で訪問を中断しているが、再開された認知症カフェを通じて関係性の維持に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人又は家族の希望を尊重して対応している。その他の外来で受ける医療に関しては、必要に応じて受診の付き添いをして、それぞれ良好な関係が築けている。	かかりつけ医は、利用者意向によって決定されています。提携医療機関利用時は、近隣の医療機関からの往診が行われています。利用者の状況に応じた訪問看護指示等、適切な医療的支援に対応できる体制があります。時間外等でも、必要に応じた専門医については、必要に応じた通院が実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師に相談し、医療との連携が円滑に行えるように介護スタッフが観察した内容が医療に円滑に伝わるようにしている。医療経過をまとめたノートがあり、医師または看護師に伝えたい内容を書き込むことができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の付き添いには、日ごろの状況を医療者に伝えるために行っており、退院のカンファレンスや入院中の経過説明の時も出来る限り同席を行い、家族様が不安に思われることや病識等について、理解されているかの確認とその後の方針等について伝えたい思いが無いか確認し、それらの内容が医療従事者に伝わるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の予測されるケア方針を伝えるとともに、終末期をどのように過ごしたい、過ごしてもらいたいと思っているのかを意思確認を行っている。主治医及び訪問看護の事業所とも必要に応じて連携がとれるように良好な関係を築いている。	前回外部評価受審時の目標設定計画の取組として設定されており、重度化対応・終末期対応について、医療機関等との連携拡充や、施設内の体制拡充が行われ、看取り実施実績もできました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	9月20日に訓練用AEDと人形を使用して救急救命訓練を行った。また毎年、急変時の対応についての研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの策定を進めており、防災の訓練とともに今後訓練も実施していく。自治会や近隣の事業所とも相互に応援要請が行えるような声掛けを行っている。	BCP(事業継続計画)の策定が進行しており、地域や近隣他事業所との連携・協力体制についての話し合いが推進されています。	現在話し合われている、地域や近隣他施設と取り組まれているBCP(事業継続計画)の整備拡充に期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の性格や特徴を理解し、その方に合わせた接し方を行っている。また嫌がられる言葉や望まない事を理解し、生活の中でそれぞれの方が、自分らしく生きていけるように支援をしている。	利用者の尊厳や自尊心を損ねることがないように、利用者個々の思いや価値観を踏まえた、声かけやかかわり方に留意されています。一律の押しつけ的な声かけやかかわりにならないよう配慮されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がご自分の思った気持ちを出来る限り表出することができるような聞き取りを行っている。意思決定の内容が限られる場合は、ご本人が希望されると思われる内容を選択肢として、伝えて選んでいただけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアを行い、利用者様のやりたくないことは尊重し、興味のある事柄に関してはご自分で選んで取り組めるような環境作りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択を出来る方は声掛けをして選んでいただけるようにしている。また、髪型は元々好まれていた長さや、その時の声掛けで本人の意思を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、現在の入所者様は難しく行えていないが、おやつ作り等楽しみながら、一緒に作る機会を年に数回行っている。	利用者の嚥下咀嚼機能を踏まえながらも、形のあるもの、味がしっかりしたもので提供できるよう配慮されています。食事レクリエーションで、手作りおやつを利用者と共に作り楽しみながら食べたり、行事食等でも楽しめる展開に留意されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の回数や形態、水分量を把握しながら必要に応じて小分けにして摂取していただいている。水分をあまり摂られない方には、1日に何度も小分けして声掛けして、無理なく水分が摂れるように支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防を含めて各利用者様に合わせた支援を行っている。また月2回歯科の往診時にそれぞれの医療者様毎の口腔ケアの仕方を指導してもらっている、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をつけ、それぞれの排泄パターンに合わせた声掛けや排泄支援を行っている。	無理のない範囲で、トイレでの排泄維持を、継続できるように留意されています。オムツのみに頼る事を極力避けられるよう配慮しながら、適切な誘導や声かけで、対応できるよう努められています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かす機会をもってもらうこと、水分の摂取量等、便秘の原因となることを把握し、それぞれに合わせた便秘の予防と便秘になった時の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を好まれるか好まれないか、どのタイミングに入りたいのかを把握し、声掛けを行っている。どうしても嫌がられる時はタイミングをずらして、出来る限り気持ちよく入浴していたできるように支援をしている。	週2～3回となる予定浴が基本ですが、利用者の意向や体調を踏まえた柔軟な入浴機会の確保に努められています。入浴以外にも頻繁な足浴も取り入れられており、健康と清潔保持にも繋がられています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息と活動を利用者様それぞれのペースで行っていただいている。また、お部屋の環境等は各利用者様が安心して休めるように環境を整えている。また転倒リスクが高い方は転倒リスクを軽減することが出来るセンサーや低床ベッドを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の増減は介護スタッフに周知しており、タブレットで薬の説明を全員分確認できるようにしている。また、居宅療養指導のサービスで薬剤師の方にお薬についての質問が出来るような環境を構築している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	写経が好きの方にはやっていただいたり、計算が嫌いな方には他の事に取り組んでいただき、その方が楽しんでやりがいを持って取り組めることをしてもらえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス以降は近隣の散歩や庭の外気浴で気分転換を図っている。希望や感染症の状況に応じて家族さんと外出が出来るようには対応を行っている。	コロナ禍の制限下において、従前のような積極的な外出が困難な状況でしたが、制限期間中でも、施設周辺・近隣への散歩等、可能な範囲で外気に触れ、季節に触れる機会の確保に努められていました。制限緩和に伴い、外出範囲と機会の拡充が予定されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力に応じて検討はしているが、現在はそのように支援ができていない利用者様はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを本人の希望を聞いて支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	折り紙の飾りや、利用者様それぞれが過ごしやすい環境になるように配慮を行っている。明るさや温度も利用者様に合わせて設定するようにしている。	共用空間は、二つのスペースが確保されており、仕切りやカーテン等でさらにスペースを分割することも可能です。利用者個々が過ごしやすい居場所の確保ができるよう配慮されています。壁面には、職員による利用者の似顔絵等も掲示されており、家族等からも好評です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	区画を分けており、それぞれが状況に合わせた空間で過ごせるような工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りお家で過ごしていた時に使用していたもので、ご自分のお部屋と認識できるように家族様と相談しながらお部屋作りをしている。それが難しい方は、本人に聞き取りをしながら本人が好み写真等を飾って対応している。	利用者個々が、自分の部屋として過ごせる、家具・備品・装飾品・写真等が持ち込まれています。利用者の運動能力等も踏まえ、安全な動線確保に留意し、利用者が居室内の自立度を維持できるよう留意されています。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>場所がわかりやすくなる工夫をしているが、利用者様が張り紙を気にされて外してしまわれたりするので、状況に合わせて対応している。</p>	